

データプラットフォームの デザイン・運用のポイント



柴崎亮介

東京大学・空間情報科学研究センター





TREASURE
DATA

マーケティング



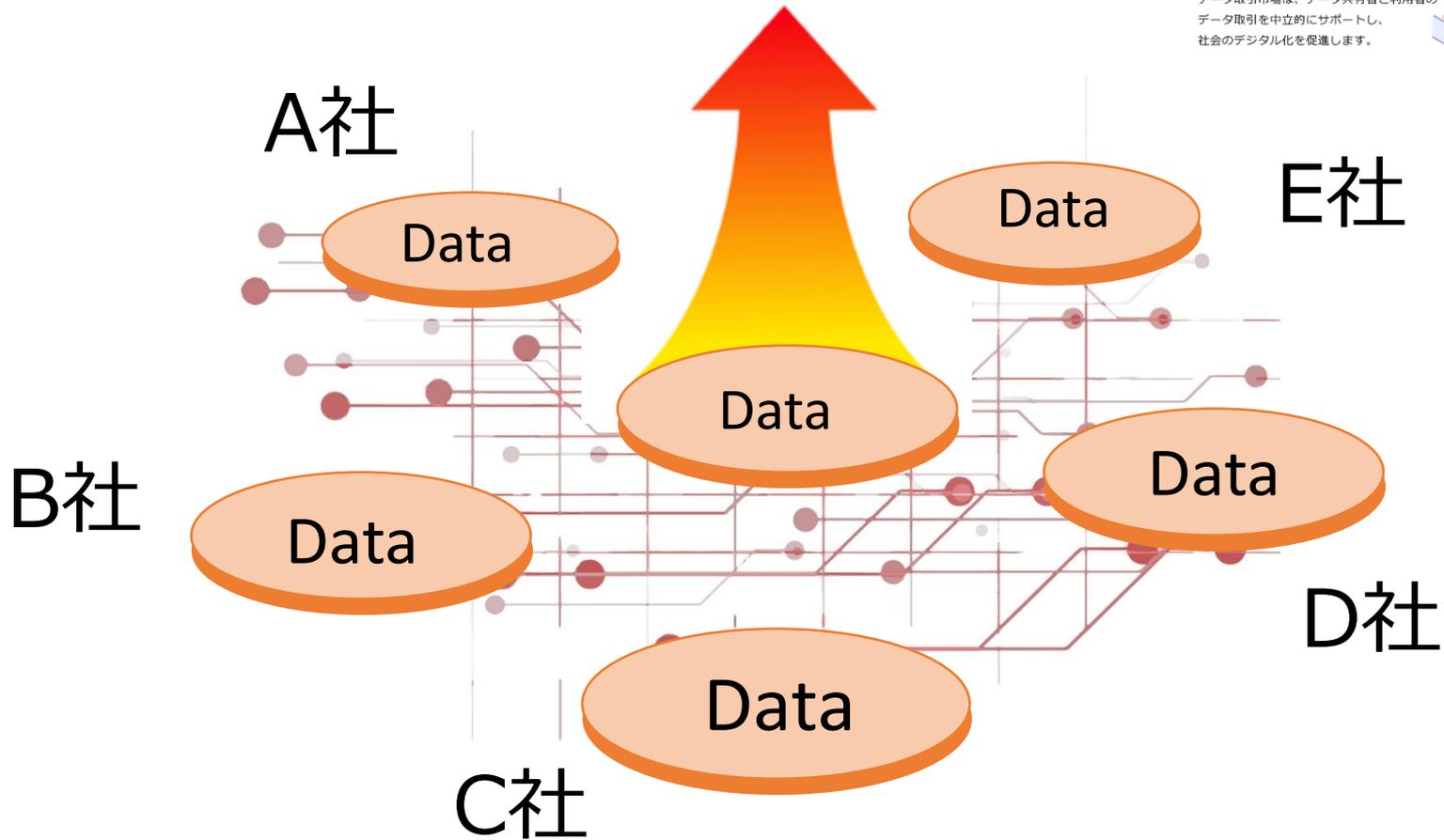
センサデータ等のマーケット

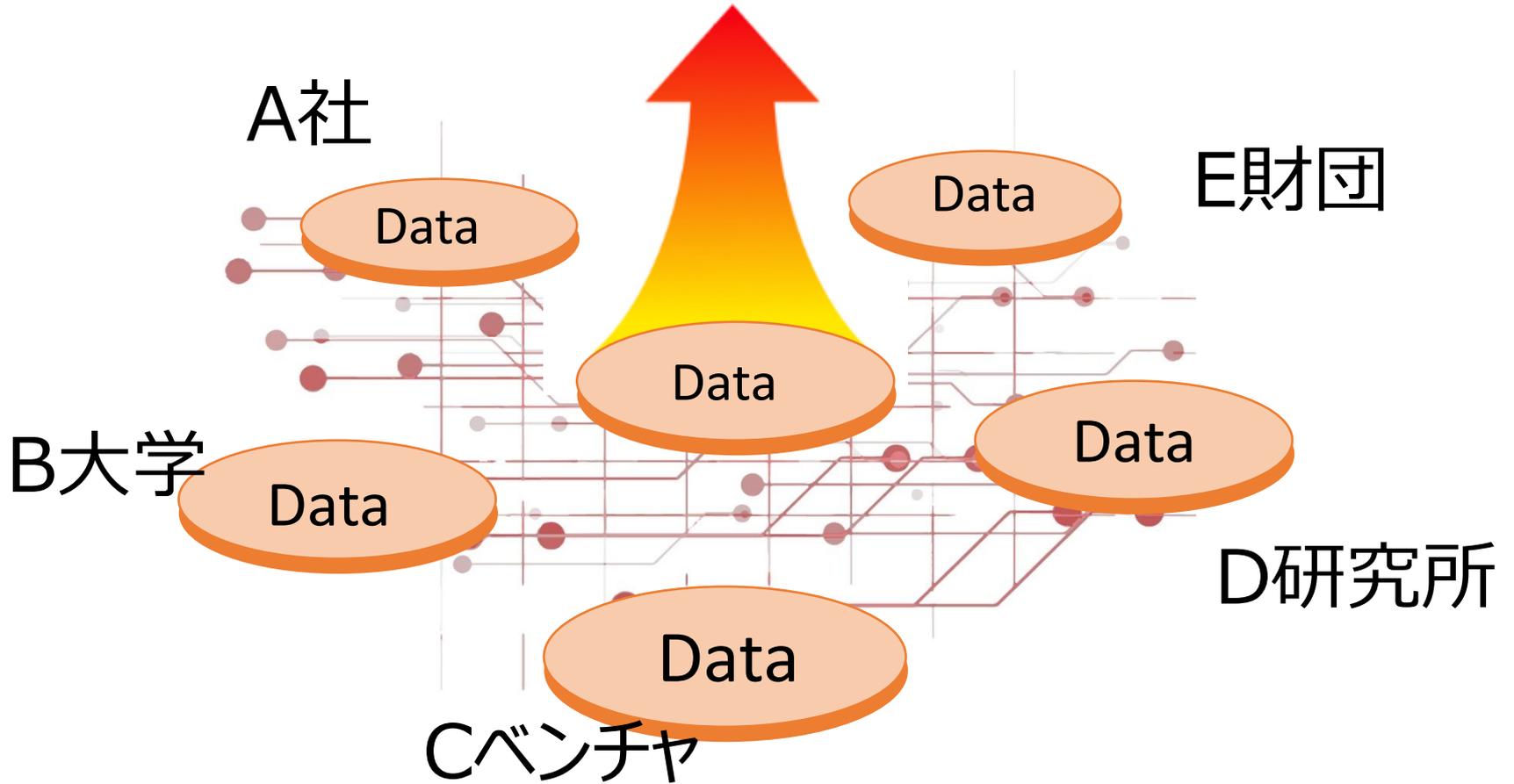
 EVENTS PARTNER REPORT

データ取引市場

EVERYSENSE PRO

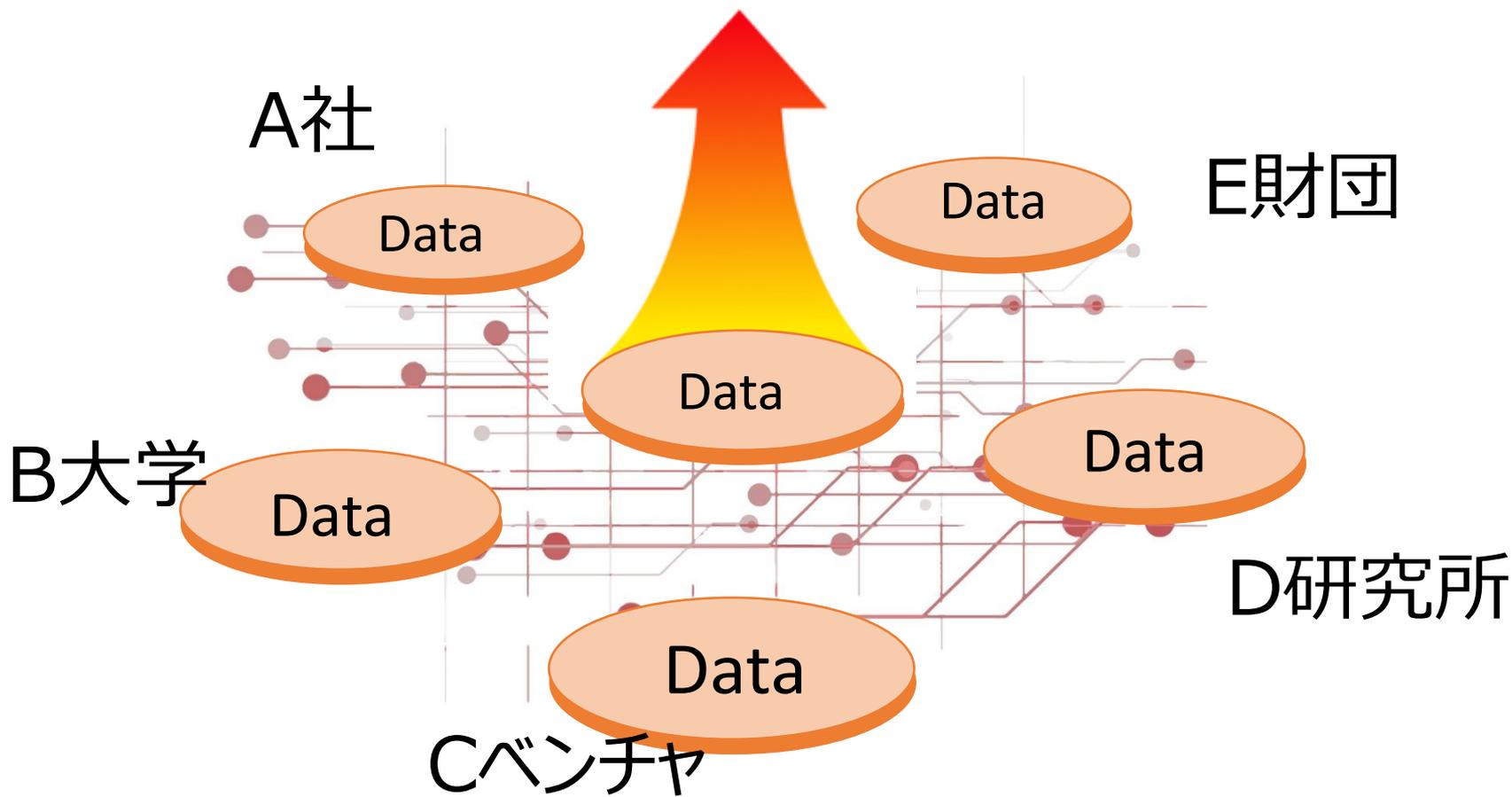
組織や産業の垣根を超えたデータとの新たな
出会いが日本のDXを変革します。
データ取引市場は、データ共有者と利用者の
データ取引を中立的にサポートし、
社会のデジタル化を促進します。





Fさん



今回のデータプラットフォーム検討の目的

- 単に「多様なデータへのアクセスを容易にする」というだけでなく、
- 「**データ利用による社会的利益を最大化する**」という観点を重視。
- そして、社会公益的な事業・サービスに対しても、継続的に適用できる仕組みとすること。具体的には・・・
 - 1) 安全安心、防災、暮らしの安定、教育・福祉などの**包摂的な社会公益的サービス**の新規立ち上げ、高度化や効率化を支援しつつ、
 - 2) 地域経済の**活性化**やイノベティブなサービスやプロダクトの創生、スタートアップ等の**育成**等を支援し、
 - 3) データから価値を生み出す技術や知恵・ノウハウ等の**創生**を長期的に促進し、さらに幅広く世の中に**普及**させること、利用可能にする。

データプラットフォームのデザインでの留意点

- 1) **データ保有者**が参加したくなるデータプラットフォーム（DPF）とその運営方法を実現する。
 - データが利用される機会・データ利用から収益を得る機会が増大すること、
 - 参加によるリスク・コストを低減する工夫
 - 参加者の社会的なビジビリティが向上する工夫（DPFを「ブランド化」する）
 - **東京都等**（東京都市圏）も積極的に参加し、貴重な行政データを提供してDPFの魅力を向上させる
- 2) 幅広い**データ利用者**がデータをどんどん使える環境を作り、同時に利用促進活動を行う。
 - データの使用条件（価格等）、知財に関する条件等を「**利用利益最大化**」の観点から柔軟化。
 - 併せて、**東京都等**（東京都市圏）がアンカーテナンシー等としてデータを積極的に利用し、その有効性をデモする。
- 3) データを加工・統合し**サービスを生み出す事業者**の参加を促進。同時に、スタートアップ等の育成を支援。
- 4) 長期的な技術や**知識創造・普及**、さらに人材育成の観点から、大学等との連携を積極的に実現
- 5) データの管理や利用、参加者の募集・管理等に関して、**公正性、公平性、効率性**等の観点、さらに**公共性、倫理上**の観点から絶えず自己点検。
- 6) データの内容・品質そのものについても、**正当性、正確性**等について評価

経営的な観点から見たデータプラットフォームの工夫

- 1) 運用費用をできるだけ減らす。データの分散管理を推進するなど。
- 2) 費用をカバーするために、データの取引等について課金するなど、参入障壁を作らず、利用者の事業リスクをできるだけ高めない方法を考える。
 - その他、キャピタル活動等、多面的な活動を展開する必要がある。
- 3) データのやりとりを定常的に増やすために、たとえば東京都のオープンデータやデータ提供等の窓口を、データプラットフォーム経由に一元化する、行政データ等を利用した公共サービスの開発や運用に際してもデータプラットフォームの利用を前提とするなどの工夫をする。
 - 特定の利用分野を想定して、関連情報を集中的に整備するなどの方策が考えられる（交通、土地・建物、災害、健康など）。
- 4) 初期投資は、組織の公平性・公正性、運用の透明性を考慮しつつ、公的投資機関等から、何らかの資金調達を行う。
- 5) データ保有者、データ加工者（データから付加価値を提供する者）、データ利用者（公共、民間、学術など）のコミュニティを組織化し、幅広く情報発信を行い、プラットフォームを媒介として「データ利用による社会的利益最大化活動」を促進する。
- 6) 同時に社会的課題解決のための「フラグシップ・プロジェクト」を実施するなど、ブランドを確立する。
- 7) また他の「データプラットフォーム」活動と積極的に連携し、シナジー効果を最大化する。